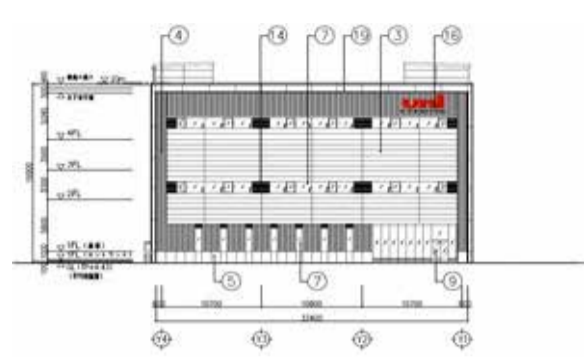




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三菱鉛筆株式会社 横浜事業所新倉庫計画	階数	地上4F
建設地	横浜市神奈川区入江二丁目5番12号	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	144 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,100 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年11月25日
敷地面積	(仮想)9490 m ²	作成者	清水建設株式会社
建築面積	3,764 m ²	確認日	2020年3月6日
延床面積	12,821 m ²	確認者	遠藤正隆



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: 60%: 80%: 100%: 100%超:

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 省エネルギーに配慮した安全性の高い合理的な施設の創造。 (外装は金属断熱サンドイッチパネル、屋根はダブル折版を採用し倉庫の開口部を極力合理化することで、倉庫内環境の向上に努める。)		その他 -
Q1 室内環境 F 建材をほぼ全面的に採用し、非喫煙者が煙にさらされないような流出対策を計画するなど空気質環境に配慮。	Q2 サービス性能 階高を高く設定し、空間・荷重のゆとり確保することで対応性・更新性に配慮。	Q3 室外環境(敷地内) 沿道緑化による良好な景観形成や、敷地内の既存樹木を保存するなど生物環境の保全や地域景観の継承に配慮。
LR1 エネルギー 断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制。LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮。	LR2 資源・マテリアル リサイクル資材を採用するなど非再生性資源の使用量削減に配慮。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避。	LR3 敷地外環境 運用時のLCCO ₂ 排出量を低減し、地球温暖化へ配慮。燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(~)を示し記述してください。

建物名称 三菱鉛筆株式会社 横浜事業所
新倉庫計画

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 4

省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 38 %削減



一次エネルギー消費量基準	適合
外皮基準	対象外

受付日 2020年11月7日

誘導基準

エネルギー対策 (建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用 設備システムの高効率化 効率的運用)

断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制。

LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 3

室内環境対策 (温熱環境対策 光環境 空気質環境)

明るさセンサーにより自動照明制御が可能。

F をほぼ全面的に採用。

機能性対策 (機能性 知的生産性向上の取組)

天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮。

室外環境(敷地内)対策 (敷地内温熱環境の向上)

高温排熱の放出部の設置なし。

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

耐用性・信頼性 (耐震・免震 部品・部材の耐用年数向上 信頼性)

給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上でEは不使用。

節水型器具の採用、配管系統を区分、災害時用水栓の設置。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 3

室外環境(敷地内)対策 (生物環境 まちなみ・景観 地域性への配慮)

壁面位置を境界から離隔。

ツツジ等での沿道緑化による良好な景観形成

敷地内の既存樹木を保存し生物環境の保全や地域景観の継承に配慮。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2017年版v.1.7
三菱鉛筆株式会社 横浜事業所新倉庫計画

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート	実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
0	建築物の環境品質					-		-	3.2
Q1	室内環境					0.31			3.1
1	音環境				2.7	0.15	-	-	2.7
1.1	騒音				3.0	0.40	-	-	-
1.2	遮音				1.8	0.40	-	-	-
1.2.1	開口部遮音性能				1.0	0.60	-	-	-
1.2.2	界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-	-
1.2.3	界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.2.4	界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3	吸音				4.0	0.20	-	-	-
2	温熱環境				2.4	0.35	-	-	2.4
2.1	室温制御				3.2	0.50	-	-	-
2.1.1	室温	快適・働きやすさ	温熱環境		3.0	0.38	-	-	-
2.1.2	外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	温熱環境 外皮性能		4.0	0.25	-	-	-
2.1.3	ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	温熱環境		3.0	0.38	-	-	-
2.2	湿度制御	快適・働きやすさ	温熱環境		1.0	0.20	-	-	-
2.3	空調方式	快適・働きやすさ	温熱環境		2.0	0.30	-	-	-
3	光・視環境				3.6	0.25	-	-	3.6
3.1	昼光利用				3.0	0.30	-	-	-
3.1.1	昼光率	快適・働きやすさ	光環境		3.0	0.60	-	-	-
3.1.2	方位別開口	快適・働きやすさ	光環境		-	-	-	-	-
3.1.3	昼光利用設備	快適・働きやすさ	光環境		3.0	0.40	-	-	-
3.2	グレア対策				3.0	0.30	-	-	-
3.2.1	昼光制御	快適・働きやすさ	光環境		3.0	1.00	-	-	-
3.3	照度	快適・働きやすさ	光環境		4.0	0.15	-	-	-
3.4	照明制御	快適・働きやすさ	光環境		5.0	0.25	-	-	-
4	空気質環境				3.9	0.25	-	-	3.9
4.1	発生源対策				4.0	0.50	-	-	-
4.1.1	化学汚染物質	快適・働きやすさ	空気質環境		4.0	1.00	-	-	-
4.2	換気				3.0	0.30	-	-	-
4.2.1	換気量	快適・働きやすさ	空気質環境		3.0	0.33	-	-	-
4.2.2	自然換気性能	快適・働きやすさ	空気質環境		1.0	0.33	-	-	-
4.2.3	取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	空気質環境		5.0	0.33	-	-	-
4.3	運用管理				5.0	0.20	-	-	-
4.3.1	CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	空気質環境		-	-	-	-	-
4.3.2	喫煙の制御	快適・働きやすさ	空気質環境		5.0	1.00	-	-	-
Q2	サービス性能				-	0.30	-	-	3.3
1	機能性				2.9	0.40	-	-	2.9
1.1	機能性・使いやすさ				2.3	0.40	-	-	-
1.1.1	広さ・収納性	快適・働きやすさ	機能性		3.0	0.33	-	-	-
1.1.2	高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	機能性		1.0	0.33	-	-	-
1.1.3	バリアフリー計画	快適・働きやすさ	機能性		3.0	0.33	-	-	-
1.2	心理性・快適性				3.6	0.30	-	-	-
1.2.1	広さ感・景観	快適・働きやすさ	機能性		5.0	0.33	-	-	-
1.2.2	リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	機能性		5.0	0.33	-	-	-
1.2.3	内装計画	快適・働きやすさ	機能性		1.0	0.33	-	-	-
1.3	維持管理				3.0	0.30	-	-	-
1.3.1	維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	機能性		3.0	0.50	-	-	-
1.3.2	維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	機能性		3.0	0.50	-	-	-
2	耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1
2.1	耐震・免震				3.0	0.50	-	-	-
2.1.1	耐震性	防災	耐震・免震		3.0	0.80	-	-	-
2.1.2	免震・制振性能	防災	耐震・免震		3.0	0.20	-	-	-
2.2	部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-	-
2.2.1	躯体材料の耐用年数	防災	部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-	-	-
2.2.2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	部品・部材の耐用年数向上		2.0	0.20	-	-	-
2.2.3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.10	-	-	-
2.2.4	空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.10	-	-	-
2.2.5	空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	部品・部材の耐用年数向上		5.0	0.20	-	-	-
2.2.6	主要設備機器の更新必要間隔	防災	部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-	-	-
2.4	信頼性				3.2	0.20	-	-	-
2.4.1	空調・換気設備	防災	信頼性		3.0	0.20	-	-	-
2.4.2	給排水・衛生設備	防災	信頼性		4.0	0.20	-	-	-
2.4.3	電気設備	防災	信頼性		3.0	0.20	-	-	-
2.4.4	機械・配管支持方法	防災	信頼性		3.0	0.20	-	-	-
2.4.5	通信・情報設備	防災	信頼性		3.0	0.20	-	-	-
3	対応性・更新性				4.3	0.30	-	-	4.3
3.1	空間のゆとり				4.6	0.30	-	-	-
3.1.1	階高のゆとり				5.0	0.60	-	-	-
3.1.2	空間の形状・自由さ				4.0	0.40	-	-	-
3.2	荷重のゆとり				5.0	0.30	-	-	-
3.3	設備の更新性				3.6	0.40	-	-	-
3.3.1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	-
3.3.2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	-
3.3.3	電気配線の更新性				5.0	0.10	-	-	-
3.3.4	通信配線の更新性				5.0	0.10	-	-	-
3.3.5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	-
3.3.6	バックアップスペースの確保				4.0	0.20	-	-	-



CASBEE横浜2017年版v.1.7

三菱鉛筆株式会社 横浜事業所新倉庫計画

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39	-	-			3.2
1 生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	生物環境の保全と創出	3.0	0.30	-	-			3.0
2 まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.40	-	-			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり	地域性への配慮	2.0	0.50	-	-			-
3.2 敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			3.7
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-			5.0
2 自然エネルギー利用		省エネルギー性能	自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-			3.0
3 設備システムの効率化		省エネルギー性能	設備システムの効率化	4.8	0.50	-	-			4.8
4 効率的運用				2.0	0.20	-	-			2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00	-	-			-
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	効率的運用	1.0	0.50	-	-			-
集合住宅の評価				-	-	-	-			-
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	効率的運用	-	-	-	-			-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	効率的運用	-	-	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			3.7
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-			3.4
1.1 節水				4.0	0.40	-	-			-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-			-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-			-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-			-
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.60	-	-			3.8
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.11	-	-			-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	-			-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.22	-	-			-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				5.0	0.22	-	-			-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-			-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.22	-	-			-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-			3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-			-
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-	-			-
1 消火剤				-	-	-	-			-
2 発泡剤(断熱材等)				5.0	0.50	-	-			-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			3.4
1 地球温暖化への配慮				3.7	0.33	-	-			3.7
2 地域環境への配慮				3.4	0.33	-	-			3.4
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25	-	-			-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-			-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-			-
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-			-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
3 交通負荷抑制				4.0	0.25	-	-			-
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-			-
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-			-
1 騒音				3.0	1.00	-	-			-
2 振動				-	-	-	-			-
3 悪臭				-	-	-	-			-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-			-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-			-
2 砂塵の抑制				-	-	-	-			-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-			-
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-			-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				4.0	0.70	-	-			-
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-			-
上記以外の重点項目				-	-	-	-			-
<事務用途>				-	-	-	-			-
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	知的生産性向上への取組	3.0	-	-	-			-
<住宅用途>				-	-	-	-			-
健康と安心				-	-	-	-			-
1 化学汚染物質の対策		健康・安心	健康対策	-	-	-	-			-
2 適切な換気計画		健康・安心	健康対策	-	-	-	-			-
3 結露・カビ対策		健康・安心	健康対策	-	-	-	-			-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	防犯対策	-	-	-	-			-